

平成二十四年吉日

文語の苑のご繁榮まことに目出たく存じ奉り候。

またこの度は、『候文の手引き』御出版、文語普及の御事業のますますの御發展を慶賀奉り申し上げます。

さて最近小生研究所轉居致し候に就き、一言御挨拶申し上げます候。

従來の虎ノ門の事務所、もともと建物の老朽甚だしき上に、昨年の大震災あり、壁のひび入り激しく、改築のための立ち退きを迫られ候。

虎ノ門事務所は、事務所ビル中においては珍しく瀟洒たる内装にて、快適優雅なる滞在を享受しつつ御座候間、去りがたき思ひ切なるもの御座候へども、かくなりては、我が身の榮耀榮華もここまでと覺悟致し、いかなる陋屋に落魄するも、わが情報の事業を細々と續けんと覺悟したる次第にて御座候。

かくして分に應じ候住居を求め居り候間、いかなる天の配劑なりや、その名もパレ・ロワイヤル、外國人には、恥づかしき餘り發音も憚らるる物件に巡り合ひし次第に御座候。

傳ふるところによれば、かつては、政界の業師、怪物など、魑魅魍魎の跋扈せし館にて御座候。英語にすればパン・デモニアムにて御座候はんか。然れども、近年壯麗なる國會議員事務所建設され、住民も漸次立ち退き候故、岡崎研究所の如き零細なる研究所にも借用可能となれる由に御座候。

皇城鎮護の日枝神社の神域にて、靈氣あまねく、もし文語の苑の諸賢、仙客來たり遊び賜らんには、魑魅魍魎も影潜め、金波銀波の波靜かとなること必定と存じ候につき、おひまの折には御枉駕賜れば光榮と存じ、ここもと願ひ申し上げます奉る次第に御座候。